



(再々評価)

資料4-4-1
関東地方整備局
事業評価監視委員会
平成23年度第1回

国営昭和記念公園

平成23年7月21日

国土交通省 関東地方整備局

- I. 事業の概要
- II. 事業の必要性
- III. 事業進捗の見込み
- IV. 今後の対応方針(原案)

I 事業の概要



1. 計画諸元

所在地	東京都立川市・昭島市
種別	口号国営公園
都市計画決定	昭和56年11月27日
都市計画決定面積	180.1ha



I 事業の概要



2. 基本理念

基本理念

(昭和54年 昭和記念公園(仮称)基本問題懇談会)

天皇陛下御在位五十年記念事業の一環として、国は首都近郊に記念公園を建設し、これを永く後世に伝えることとした。この公園は、本事業の趣旨に沿って、「緑の回復と人間性の向上」をテーマに豊かな緑につつまれた広い公共空間と文化的内容を備えたものとし、現在及び将来を担う国民が自然的環境の中で健全な心身を育み、英知を養う場とするものとする。

基本方針

(昭和54年 昭和記念公園(仮称)基本問題懇談会)

1) 基本的事項

- ①国営昭和記念公園は、激動の昭和を静かに顧み、緑豊かな環境の中で新たな時代の連帯と生きがいを求めるための礎石として建設されるものであり、日本を代表する公園として国際的にも特徴のあるものとする。
- ②公園全体の基調は、静かで緑あふれる、新たな空間を構成するものとする。
- ③四季おりおりの運動、休養等多様なレクリエーション活動を通じて、人間形成の場となるものとする。
- ④広く国民各層の連帯意識の醸成と生きがいの追求に資するため、新しい時代にふさわしい格調の高い文化活動の拠点としての性格を有するものとする。
- ⑤大震災火災時の避難地としての機能を併せ有するものとする。
- ⑥わが国の伝統的造園技術を生かすとともに、広く現代の技術を結集したものとする。

2) 施設に関する事項

- ①昭和の50年を顧みるとともに新たな時代の発展を祈念するのにふさわしい記念施設を設置する。
- ②豊かな緑と深い樹林地を基調とし、武蔵野の景観を蘇生させるための修景を施すとともに、水を有効に活用する。
- ③四季の変化に対応し、豊かな季節感をつくりだす花園を設置するほか、わが国の代表的な花であるサクラ等を活用した花木園、日本庭園等を設置する。
- ④老若男女が自由にのびのびと運動できる施設を設置する。
- ⑤広大な空間に、わが国並びに世界の文化水準の向上に寄与するため、格調の高い文化活動を可能とする施設を設置する。
- ⑥広場、園路等の施設は、大震災火災時における広域避難地としての機能が十分発揮できるような規模、構造等を有するものとする。
- ⑦本公園の機能を高度に発揮させるために、園内の交通施設はもとより、来園のための交通施設の整備を図るものとする。

I 事業の概要



3. 公園の概要

5つのゾーン（広場・水・森・みどりの文化・展示施設）により構成される、わが国を代表する広域型の都市公園



伝統的造園技術の伝承
（日本庭園）



（盆栽苑）



季節感の演出
（秋：コスモス畑）



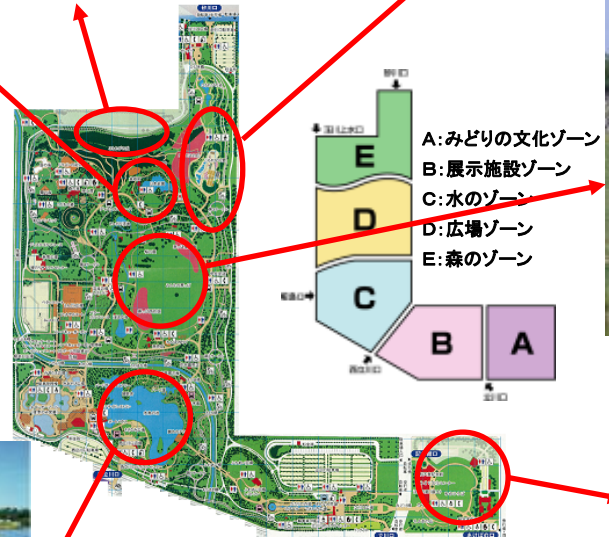
水の有効活用
（水鳥の池を水源とした水循環システム）



武蔵野の景観の蘇生（こもれびの丘）



（こもれびの里）



豊かな緑に包まれた広大な空間（みんなの原っぱ）



昭和時代の記念（昭和天皇記念館）



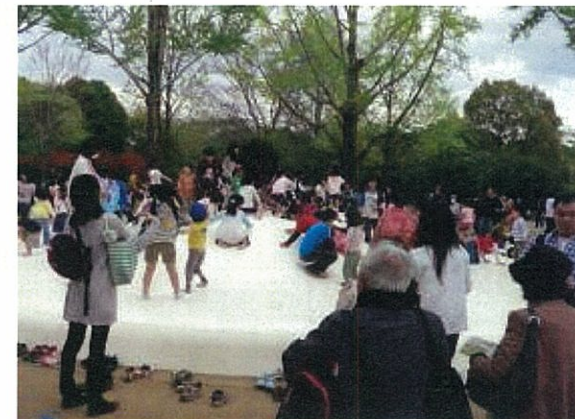
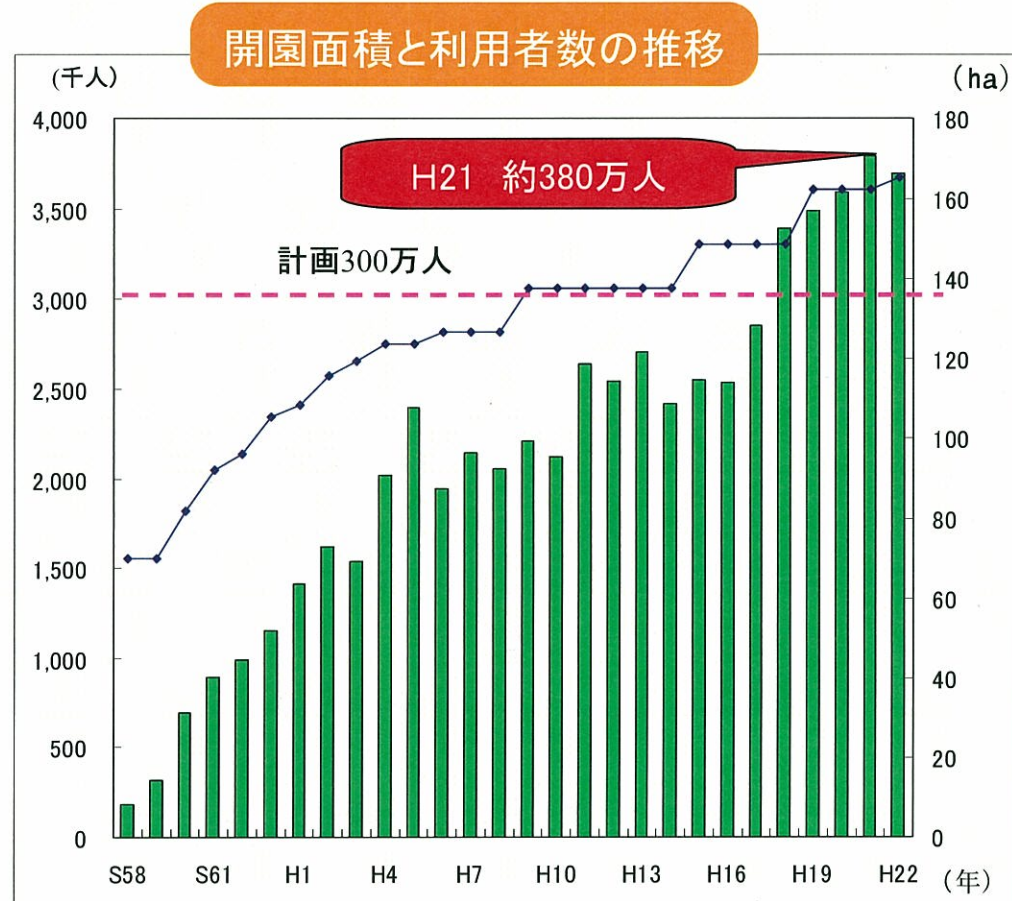
文化活動の拠点（みどりの文化ゾーン）

Ⅱ 事業の必要性

1. 公園の利用状況

開園面積の増大に合わせて着実に利用者数も増加

- ★計画時の来園者数年間300万人に対し、実来園者数は年間380万人
- ★上野動物園（年間約300万人）等を上回る多くの来園者の方々に利用されている。
 - ・オーバーユース対応（混雑対応）が必要。
 - ・隣接地の開発に伴い、公園へのアクセスの強化が必要。



混雑時の公園利用状況

Ⅱ 事業の必要性



2. 公園の役割

①防災への対応－避難場所提供

立川市・昭島市と協定を締結し、広域避難場所として地域防災に寄与

(約12万人の避難者受け入れ
⇒立川市・昭島市夜間人口の約4割相当)

(立川市172,566人、昭島市110,143人／出典：H17国勢調査)



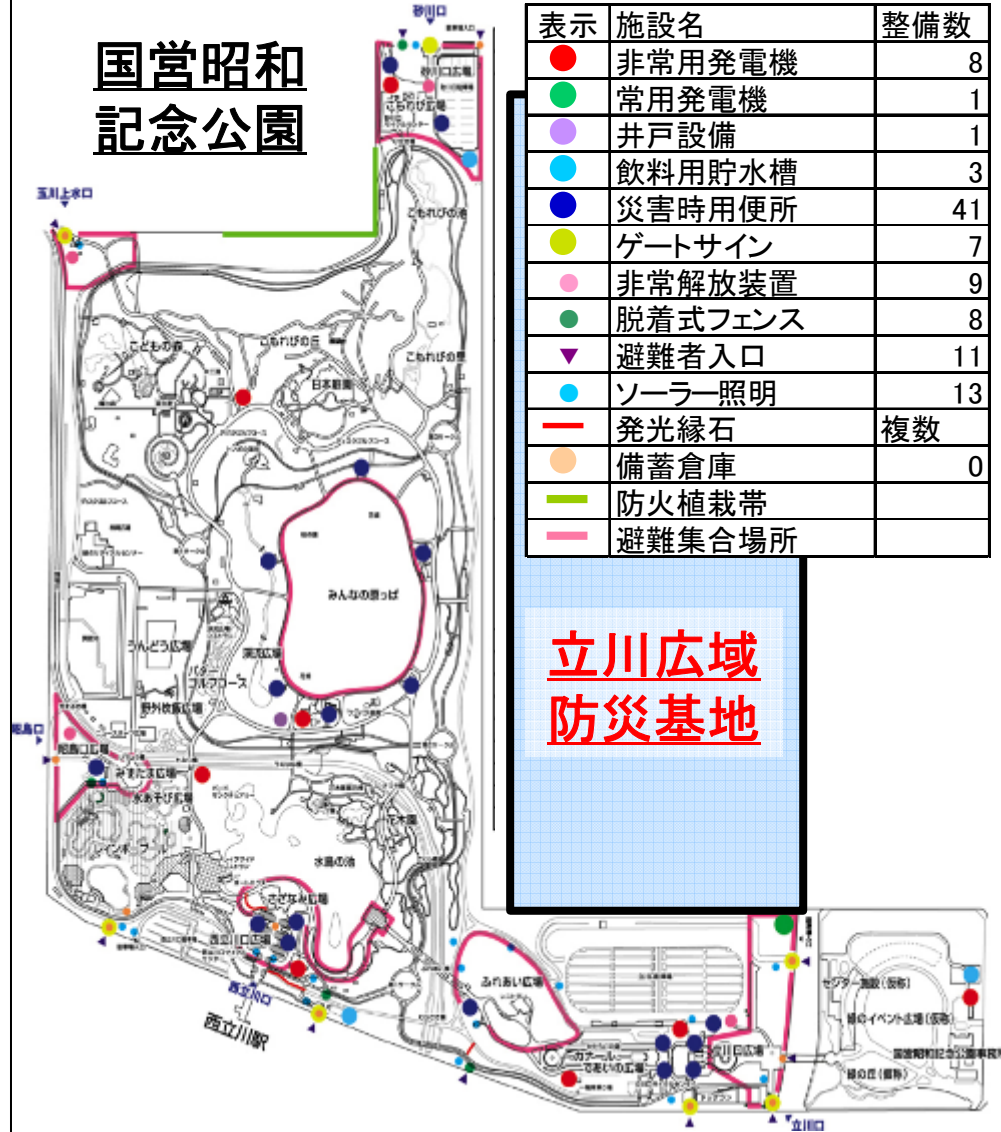
飲料用貯水槽
約15万リットルの飲料水を確保することが可能



災害時用便所
災害時は便管を切り離し、器を下のピットに使用可能

公園防災施設位置

国営昭和記念公園



立川広域
防災基地

Ⅱ 事業の必要性



2. 公園の役割

①防災への対応－帰宅困難者対応

平成23年3月11日 東日本大震災において、「JR立川駅」の帰宅困難者を受け入れ

被災直後、所轄警察・立川市の要請により、JR立川駅付近に多数いた帰宅困難者を、鉄道が復旧する翌朝までの間、花みどり文化センター等に受け入れた。【受入人数：約1,000名】



Ⅱ 事業の必要性



2. 公園の役割

②自然を保全

荒れた土地を公園として整備することで、緑豊かな土地になり、水鳥の池やトンボの湿地など、多様な生物生息環境を創出



過去 (S56年度)



現在 (H17年度)

【自然保護における取り組み】

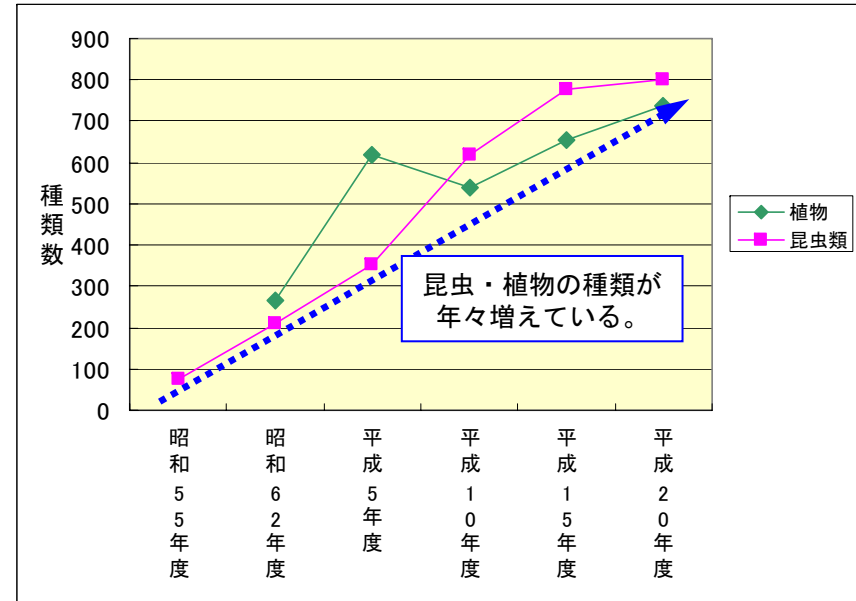
・草刈り方法の工夫によるバッタの生息環境の保持



・カントウタンポポなどの在来生物の保護



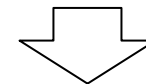
「植物・昆虫類」種類数の推移



植物・昆虫類の種類増加

	昭和62年	平成20年	備考
植物	262種類	739種類	約2.8倍
昆虫類	214種類	800種類	約3.7倍

約20年で、植物は約2.8倍、昆虫類は約3.7倍と種類が増加している。



生物多様性に大きく寄与

Ⅲ 事業進捗の見込み



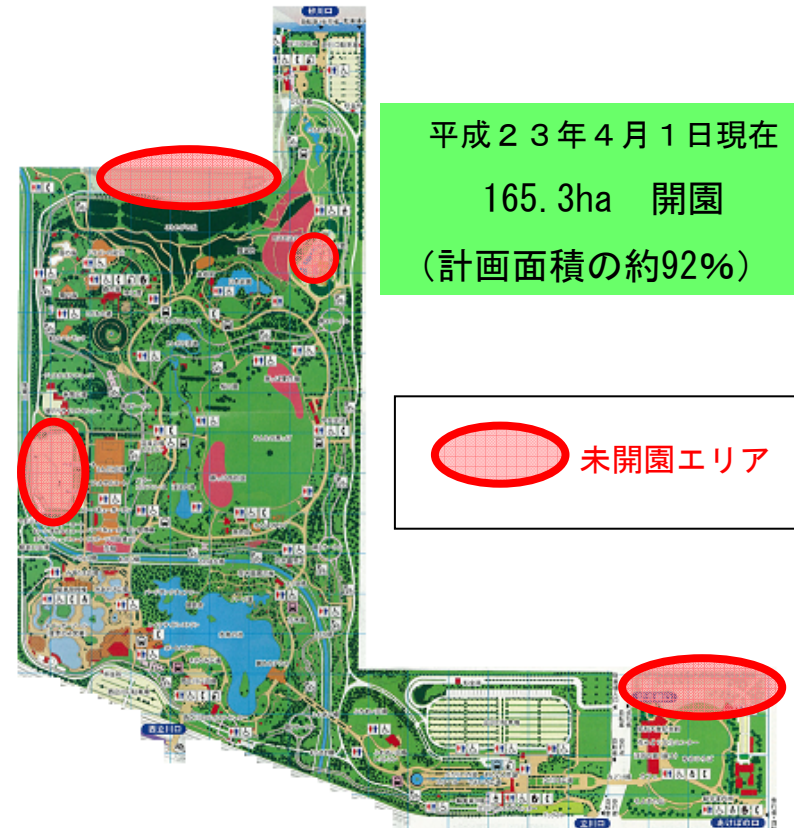
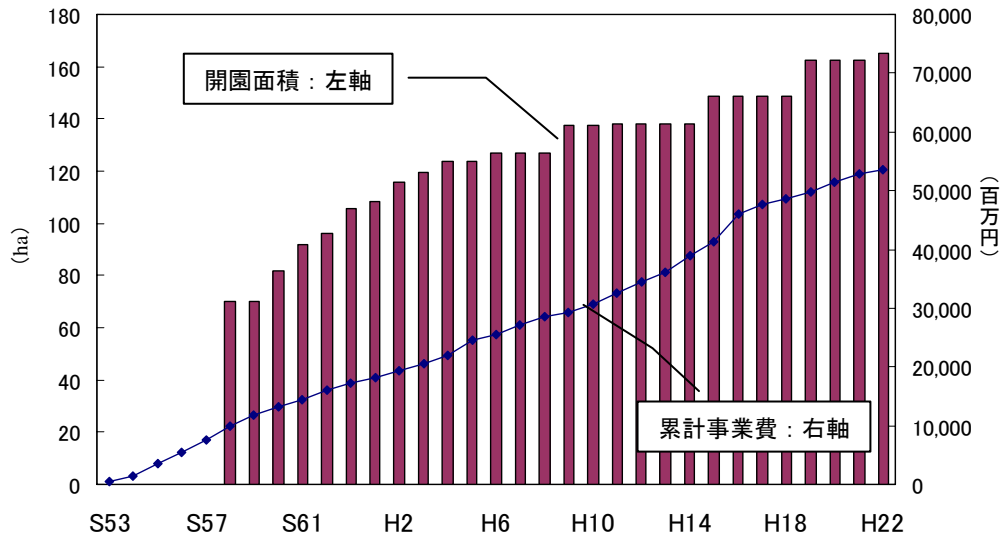
1. 事業の進捗状況

【事業進捗額】

	全体金額	H22年度末 進捗	進捗率
事業費	650億円	536億円	82.5%

※なお、用地については昭和58年9月16日に国有地所管換により
全面取得済み

累計事業費と開園面積の推移

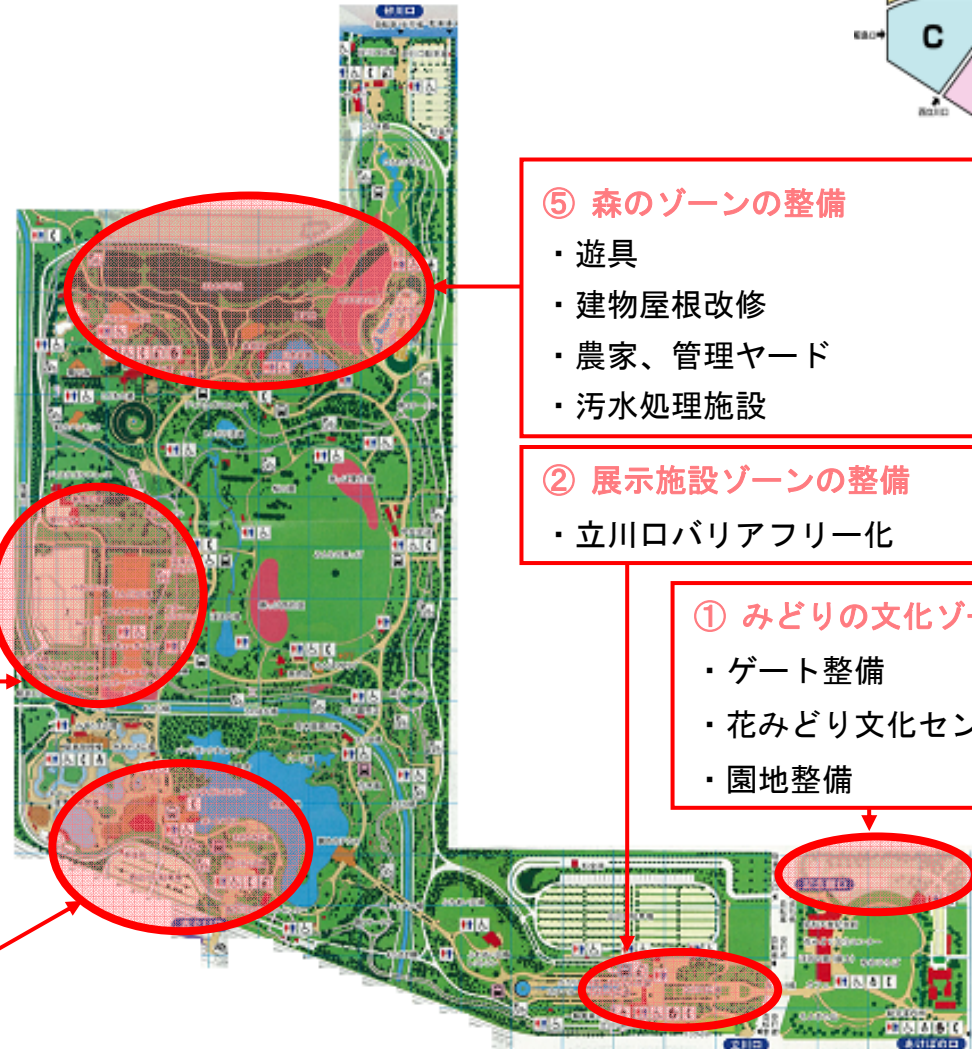
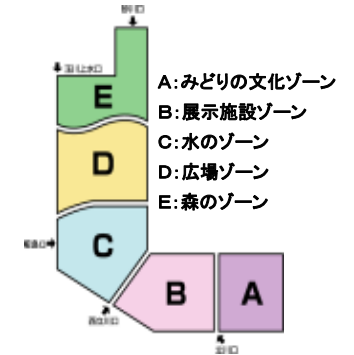


Ⅲ 事業進捗の見込み



2. 今後の事業概要

エリア	主な内容	事業費 (単位:億円)
みどりの文化ゾーン	ゲート整備 花みどり文化センター 園地整備	34
展示施設ゾーン	立川ロバリアフリー化	8
水のゾーン	西立川ロバリアフリー化 プール設備	14
広場ゾーン	調節池跡地整備 汚水処理施設 休憩施設	32
森のゾーン	遊具 建物屋根改修 農家、管理ヤード 汚水処理施設	26
計		114



⑤ 森のゾーンの整備

- ・ 遊具
- ・ 建物屋根改修
- ・ 農家、管理ヤード
- ・ 汚水処理施設

② 展示施設ゾーンの整備

- ・ 立川ロバリアフリー化

① みどりの文化ゾーンの整備

- ・ ゲート整備
- ・ 花みどり文化センター
- ・ 園地整備

平成30年度末までに全面開園

④ 広場ゾーンの整備

- ・ 調整池跡地整備
- ・ 汚水処理施設
- ・ 休憩施設

③ 水のゾーンの整備

- ・ 西立川ロバリアフリー化
- ・ プール整備

Ⅲ 事業進捗の見込み



2. 今後の事業概要

① みどりの文化ゾーンの整備

今後の展開

みどりの文化ゾーンのより一層の機能強化

ゲート整備

- 周辺開発、市街地との連携強化を図るため、「高松口（仮称）ゲート」の開設が必要

花みどり文化センター

- 情報発信、研究支援機能の整備
 - ・ 公園に関する重要な蓄積文書を保管・展示するための施設
 - ・ 国内外に向け発信力のある学会等の大規模交流事業等の開催が可能な施設
 - ・ 多目的な展示スペースの増設

園地整備

- より一層の大型イベントへの対応・誘致
 - ・ バックヤード、臨時駐車場等の増設

みどりの文化ゾーンの整備状況



Ⅲ 事業進捗の見込み



2. 今後の事業概要

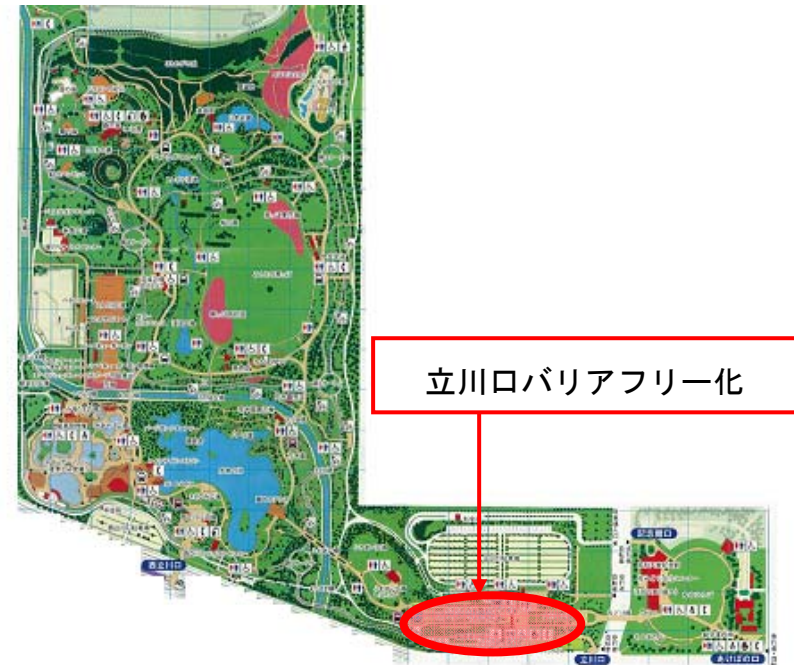
② 展示施設ゾーンの整備

今後の展開

立川ロバリアフリー化

○全来園者のうち5割を高齢者、2割を子育て世代が占めており、身障者利用の割合も年々増加している。高齢者、子育て世代等の誰もが、安心して楽しめる空間づくりとして、園内諸施設のバリアフリー化対策が必要。

- ・ トイレ整備
(子供用、高齢者用対応整備)
- ・ 園内看板設置 (外国語対応)
- ・ ベンチの設置



Ⅲ 事業進捗の見込み



2. 今後の事業概要

③ 水のゾーンの整備

今後の展開

西立川口バリアフリー化

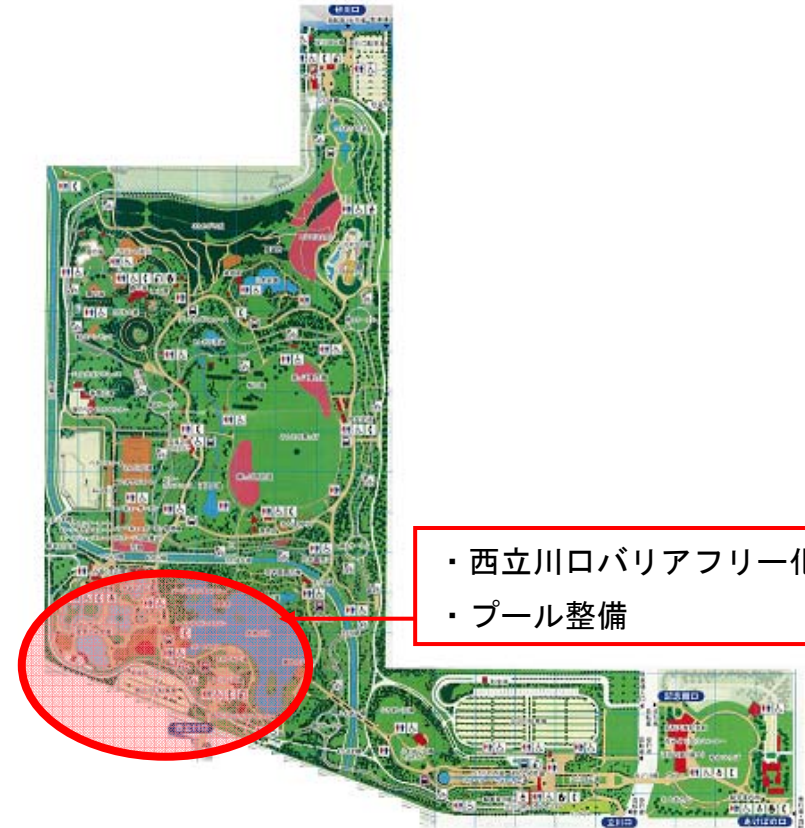
○立川口と同様の状況にあり、園内諸施設のバリアフリー化対策が必要。

- ・ トイレ整備
（子供用、高齢者用対応整備）
- ・ 園内看板設置（外国語対応）
- ・ ベンチの設置

プール整備

○雷雨時等に避難場所となる防雷施設の不足しており、早急に整備が必要。
また、熱中症対策や施設の老朽化による危険箇所の改修が必要。

- ・ 防雷対策、熱中症対策
- ・ 老朽施設の改修



Ⅲ 事業進捗の見込み



2. 今後の事業概要

③ 水のゾーンの整備（プール整備）

プールエリアのシェルター



防雷対策、熱中症対策として利用者の安全性確保のため更新が必要



補修を繰り返している支柱部



施設の老朽化が進み、内部の錆が雨水と共に人工芝上に流れ出ている。素足で歩く場所であるため大変危険。

Ⅲ 事業進捗の見込み



2. 今後の事業概要

④ 広場ゾーンの整備

今後の展開

調節池跡地整備

○周辺留保地の開発計画が決定し、残堀川調節池が留保地に整備されることとなり、園内の調節池はH27頃に撤去される予定。

調節池が撤去されしだい、留保地の開発計画と調整を図りつつ整備。

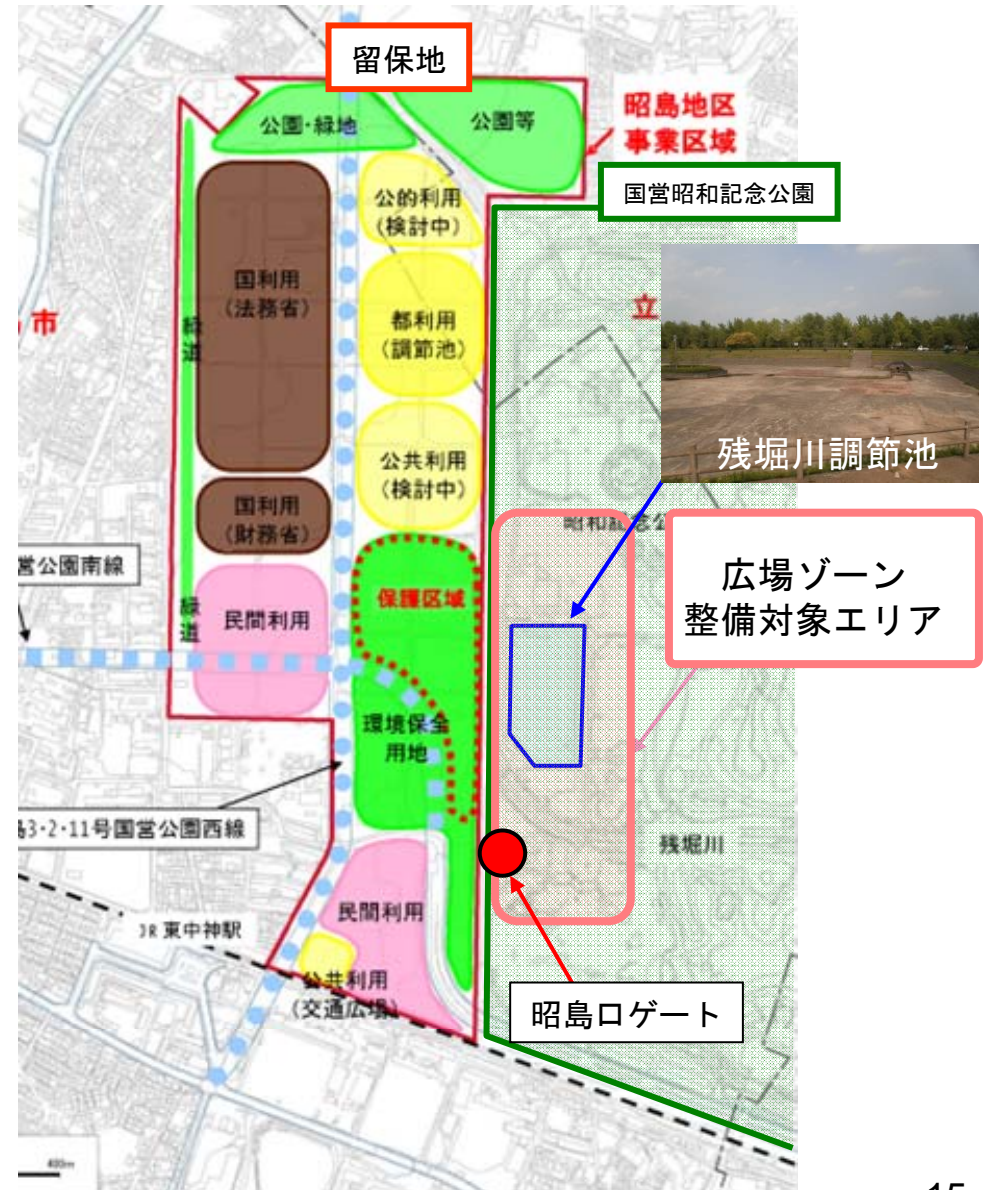
- ・ゲート整備（昭島市側とのアクセス強化）
- ・エントランス広場整備
- ・リサイクルセンターの拡張（堆肥化整備）
（オーバーユース対応）

污水处理施設

○オーバーユース対応として、污水处理施設を整備することが必要。

休憩施設

○エントランス広場整備等におけるオーバーユース対応及び防雷施設として、休憩移設を整備することが必要。



Ⅲ 事業進捗の見込み



2. 今後の事業概要

④ 広場ゾーンの整備

暫定整備中のゲート



留保地

留保地

防災対策の強化



他ゲートの混雑状況



立川口

西立川口



・雷雨時等に避難場所となる防雷施設が不足

➡ 施設の増強が必要

オーバーユース対応で、
今後、必要となる休憩施設について、
防災機能を備える。

Ⅲ 事業進捗の見込み



2. 今後の事業概要

⑤ 森のゾーンの整備

今後の展開

遊具

○オーバーユース対応として、大型遊具施設の改修

農家・管理ヤード

○地域住民と一体となって取り組んできた「農家（こもれびの里）」の整備については、現在の進捗で95%まで完了。引き続き整備を実施。

○当公園は、立川市・昭島市の広域避難場所として指定されており、災害時における大型重機等の受け入れや備品類の保管場所の整備が急務。

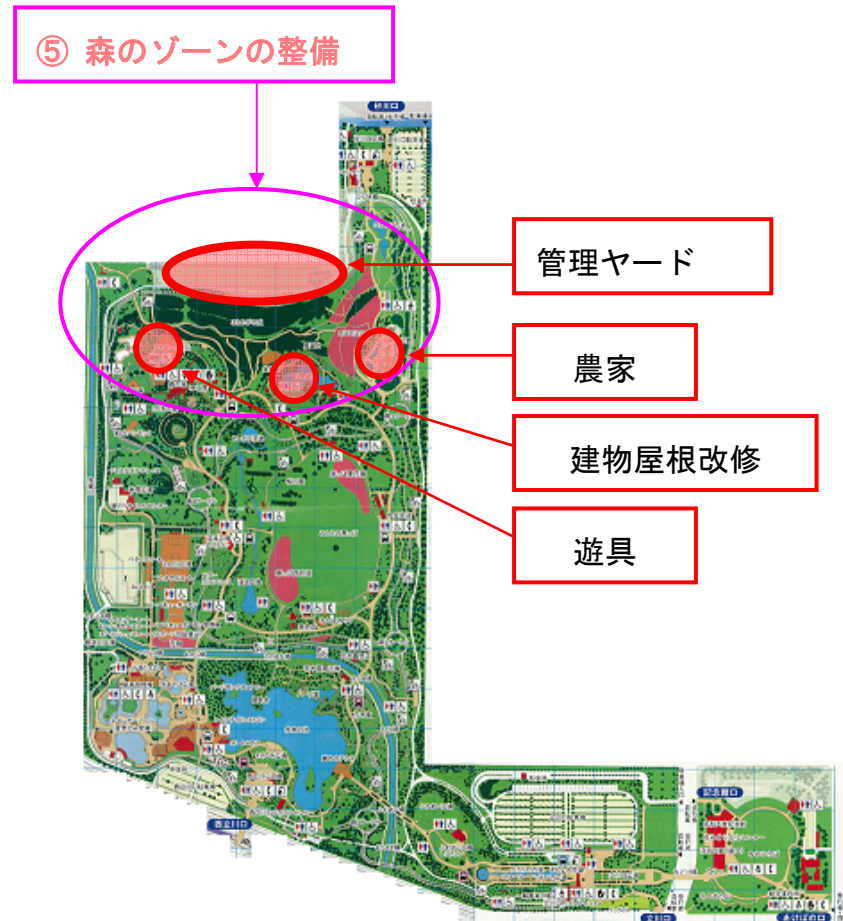
- ・ 農家
- ・ 管理ヤード

建物屋根改修

○老朽施設（建物屋根）改修

汚水処理施設

○オーバーユース対応として、汚水処理施設を整備することが必要



Ⅲ 事業進捗の見込み



2. 今後の事業概要

⑤ 森のゾーンの整備

農家

- 長屋門復元等建築
- 外構整備
- 防火設備等

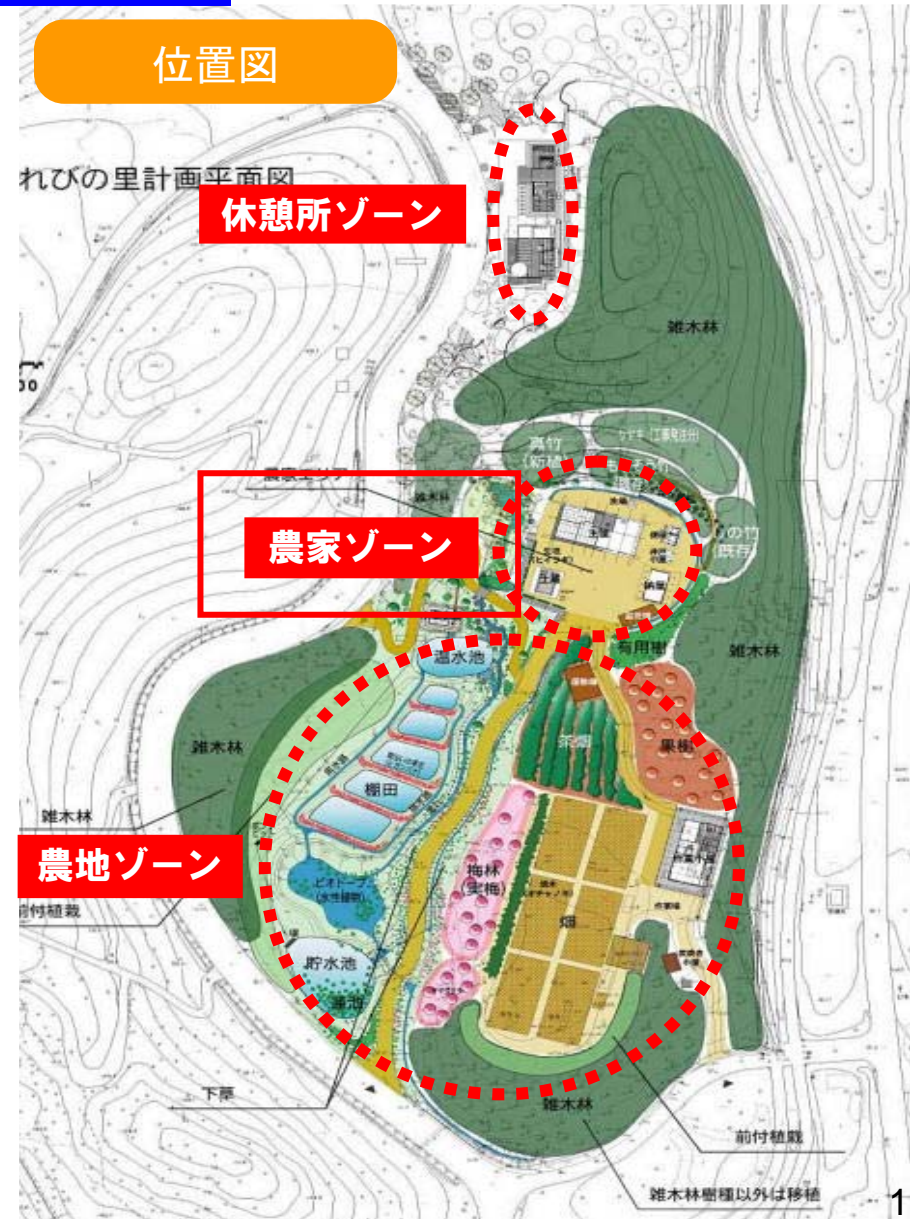
基本計画の位置づけ

- ・ 武蔵野の風景づくりと一体となって当時の暮らしや知恵を伝える

農家（こもれびの里）の整備状況

- ・ 全体の**95%**が発注済
- ・ 平成25年春の完成を目指し、農家ゾーンに位置する**農家の移築工事**を進めている。

※ 残工事は外構、防火設備のみ



Ⅲ 事業進捗の見込み



2. 今後の事業概要

⑤ 森のゾーンの整備 農家

■ 平成14年度より地域住民と協働でつくりあげてきた区域



国営公園では初の取り組みとなる計画段階からのパートナーシップの実践として、平成14年に「こもれびの里クラブ」を立ち上げ、市民ボランティアの方々が計画、整備、管理運営に参加。

参加総数：60名（一般公募から抽選により決定）

→ こもれびの里ボランティアとして発足

市民との協働による公園づくりを実施

テーマ：「昭和30年代の武蔵野の農村風景の再現」

■ かつての暮らしの知恵を再発見し、将来へ向けて発展継承

伝統的な行事の再現



まゆだまづくり



餅つき体験会



農業体験

Ⅲ 事業進捗の見込み

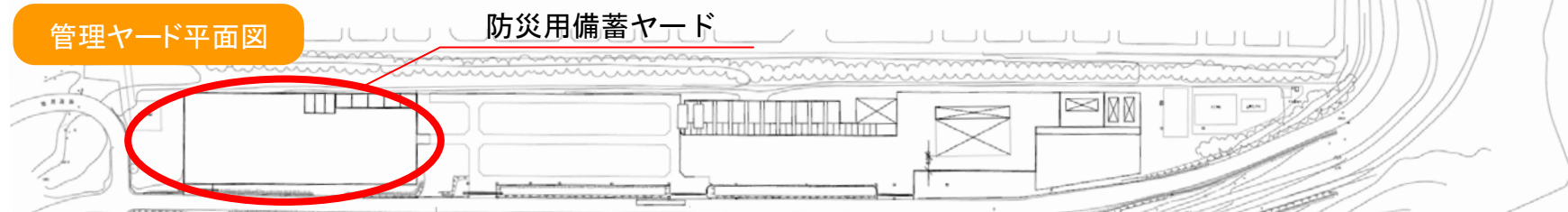


2. 今後の事業概要

⑤ 森のゾーンの整備 管理ヤード、遊具

管理ヤードの機能

- 平常時 : 公園管理のバックヤードとして活用
- 災害時 : 大型重機等の受け入れや災害時に必要となる備品の保管場所
(立川市・昭島市の広域避難場所に指定されている)



遊具の改修

- オーバーユース対応
- ・ こどもの森の大型遊具の改修



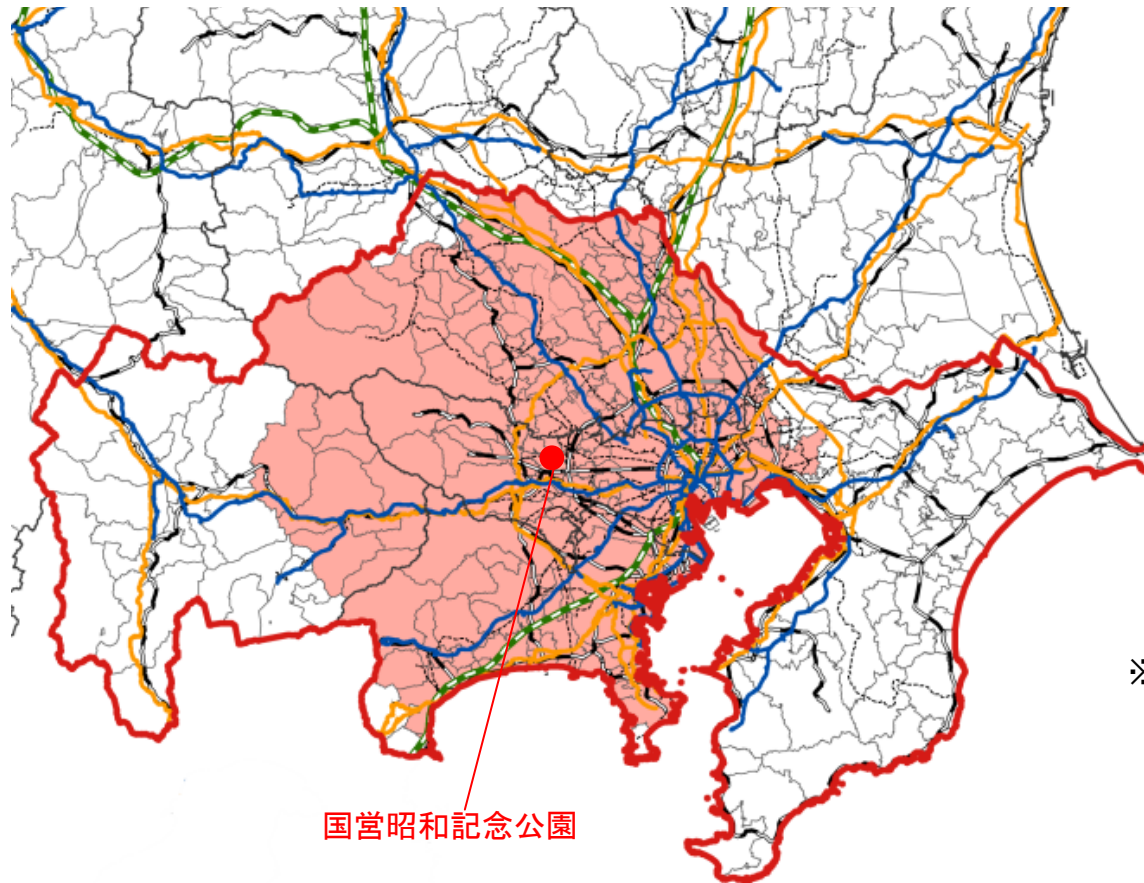
Ⅲ 事業進捗の見込み





3. 費用対効果分析※

※改訂第2版「大規模公園費用対効果分析手法マニュアル」による

○公園周辺の高速道路及び鉄道の状況を踏まえ、東京都の全域、及び神奈川県、埼玉県、千葉県、山梨県の一部を対象ゾーンとした。



国営昭和記念公園

-  : 対象ゾーン
-  : 誘致圏の範囲

	利用者割合	市区町村数	対象ゾーン内の市区町村数
東京都※	71.2%	53	53
神奈川県	13.2%	33	28
埼玉県	10.0%	64	60
千葉県	2.3%	54	6
山梨県	0.2%	27	7
その他	3.1%	利用割合が低いため除外	

※離島は除く。区数は特別区である東京23区のみ計上。

※利用実態調査結果から、誘致圏の対象範囲は1都4県を対象とします。

ただし、高速道路や鉄道など交通網の観点から、より実態にあうよう対象範囲(ゾーン)を絞り込みます。

Ⅲ 事業進捗の見込み



3. 費用対効果分析※1

※1改訂第2版「大規模公園費用対効果分析手法マニュアル」による

今回（H23）の再評価便益比

基準年：平成23年度

便益(B)	直接利用価値		間接利用価値		総便益	費用便益比 (B/C)
	8,607億円		2,271億円		10,877億円	
費用(C)	用地費※	施設費	維持管理費	総費用	1.25	
	6,988億円	1,192億円	538億円	8,718億円		

※:用地は所管換えにより無償で取得しているが、買収したものとして計算。

注)四捨五入しているため、合計が一致しない場合がある。

Ⅲ 事業進捗の見込み



3. 費用対効果分析※1

※1改訂第2版「大規模公園費用対効果分析手法マニュアル」による

前回（H20）再評価との比較

	前回再評価時 (H20年度)	今回再評価 (H23年度)	変化及びその他原因等	再評価から の変化
費用便益比(B/C)	1.31	1.25	・競合公園増加で、間接利用価値が下がったため	-0.06
事業費	650億円	650億円	・変更なし	—
進捗率	76.5%	82.5%	—	—
事業期間	昭和53年度～ 平成30年度	昭和53年度～ 平成30年度	・変更なし	—

IV 今後の対応方針(原案)



(1) 事業の必要性に関する視点

- ・ 天皇陛下御在位五十年記念事業の一環として建設が計画され、首都圏の高密な市街地において、広大な緑の空間を提供し、多様な活動が可能であることから、年間約380万人（H21年度）が来園するなど、非常に多くの国民に利用され満足度も高いものとなっている。
- ・ 国営公園として整備することで、オープンスペースの持続性を担保し、その地域固有の自然（生物多様性）を保全するとともに、伝統文化の継承を図っている。
- ・ 地域において、緑の拠点、広域防災拠点、地域活性化拠点として位置付けられており、地域と連携を図ることを通して、一層の整備運営への充実と早期全面開園の要請がある。
- ・ 年々、公園利用者数は増加しており、オーバーユースに対応するための施設整備が急務である。
- ・ 費用対効果（B/C）は、1.25である。

(2) 事業進捗見込みの視点

- ・ 現在までに事業費で約83%、開園面積で約92%の進捗となっている。
- ・ 未開園エリアにおける事業の選択と集中、事業コストの継続的な見直し、オーバーユースへの早急の対応を図る。
- ・ 上記の取り組みにより公園全体の開園に向けて、平成30年度までに完了するよう整備を進める。

(3) 対応方針(原案)

- ・ 引き続き本事業を推進することが妥当である。（事業継続）